

動物骨から晶出した藍鉄鉱

矢田 猛士*・中村 唯史*

The Vivianite Crystallized on Animal Bone

Takeshi Yada and Tadashi Nakamura

写真の結晶は、鉄とリンを主成分とする藍鉄鉱 (vivianite) で、動物骨から晶出したものである。国道431号バイパスの建設工事に伴って島根県教育委員会によって実施された青木遺跡 (出雲市東林木町) で出土したものである。同遺跡では、弥生時代中期 (約2000年前) の大型の墓 (四隅突出型墳丘墓) が発見された。この結晶は墓周辺の堆積層に、人骨などとともに包含されていたもので、年代的には墓と同時期のものとみられている。藍鉄鉱は、淡水成の還元的な堆積物中に骨などのリンを含む物質が存在する場合に、しばしば二次鉱物として形成されるが、このように美しい結晶はめずらしい。

この試料は、島根県教育委員会に提供して頂いた。鉱物の同定は大阪大学の土山 明教授にご協力頂いた。ここに記してお礼申し上げます。

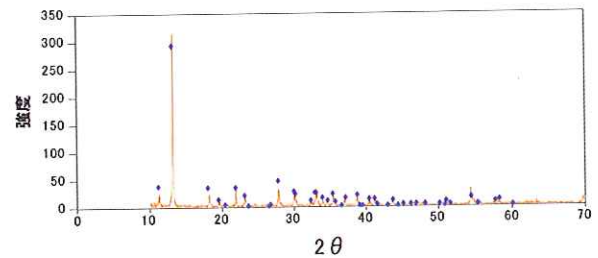


図1 粉末 X 線回折の測定結果
実線は今回出土した結晶の測定結果で、横軸は X 線の回折角 (2θ)、縦軸は X 線の強度を示す。線源は Cu。無反射板を使用。ドットは藍鉄鉱標準試料の回折角と強度。

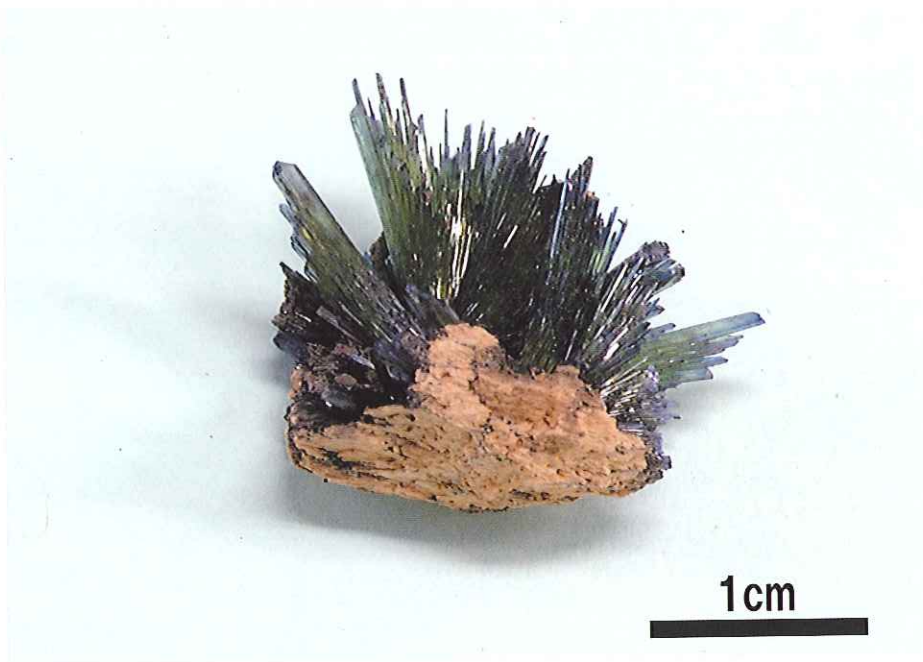


写真1 青木遺跡で出土した藍鉄鉱の結晶

* 島根県立三瓶自然館, 〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根 1121-8
The Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe (Sahimel), 1121-8, Tane, Sanbe-cho, Ohda-shi, Shimane Prefecture